

2. 長岡京市今里車塚古墳出土笠形木製品の樹種同定

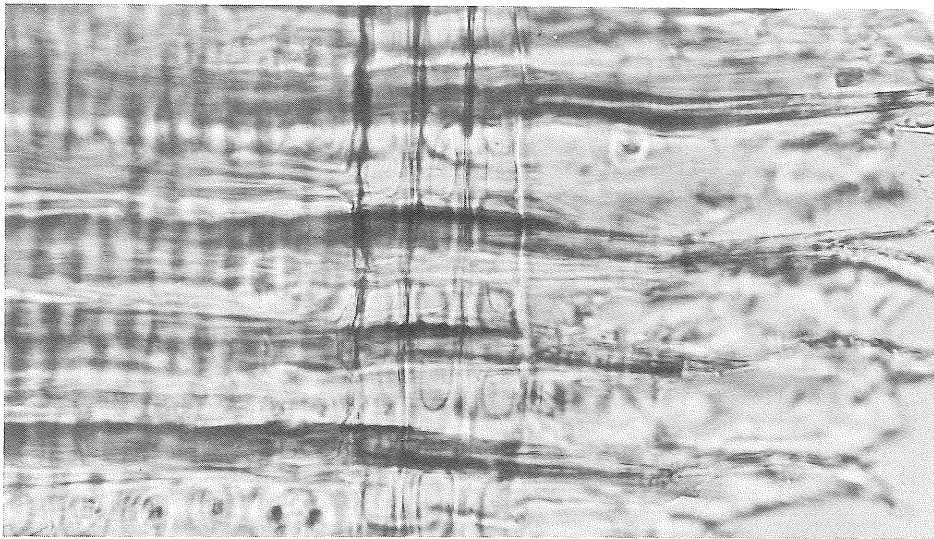
林 昭三（京都大学木材研究所）

長岡京市今里車塚古墳（古墳時代中期）から発掘された木製柱4点（試料No. 2, 3, 5, 7）、笠形木製3点（試料No. 42, 49, 50）について樹種の識別をした。試料から薄切片をとり、顕微鏡観察をした結果、すべてコウヤマキ（*Sciadopitys verticillata* S. et. Z.）であった。識別の拠点は以下のとおりである。

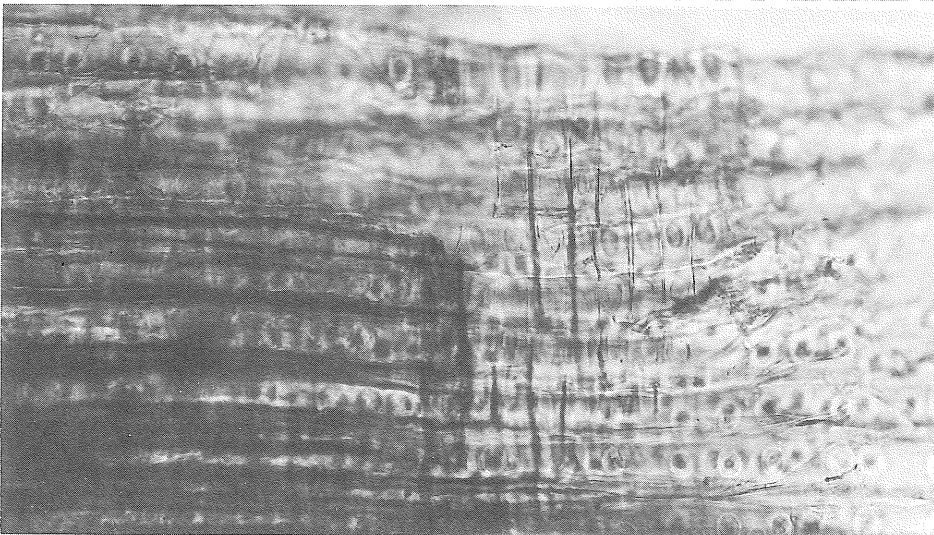
早材から晩材への移行は比較的ゆるやかで、晩材部の幅は一般には狭い。樹脂道はない。放射組織は放射柔細胞のみからなり、窓状の分野壁孔をもつ。窓状の分野壁孔はコウヤマキ属とマツ属との特徴であるが、前者では後者より少し小さく、ま

ぶた状になる。このほかマツ属には樹脂道や放射仮道管があることで区別ができる。なお、コウヤマキは、本州（福島県以南）、四国、九州に分布する一科一属一種の日本特産の常緑針葉高木で、耐朽性、耐湿性が強く、強靱で微香がある。建築、風呂桶、桶類、土木、船、棺桶、井戸枠などに賞用される。

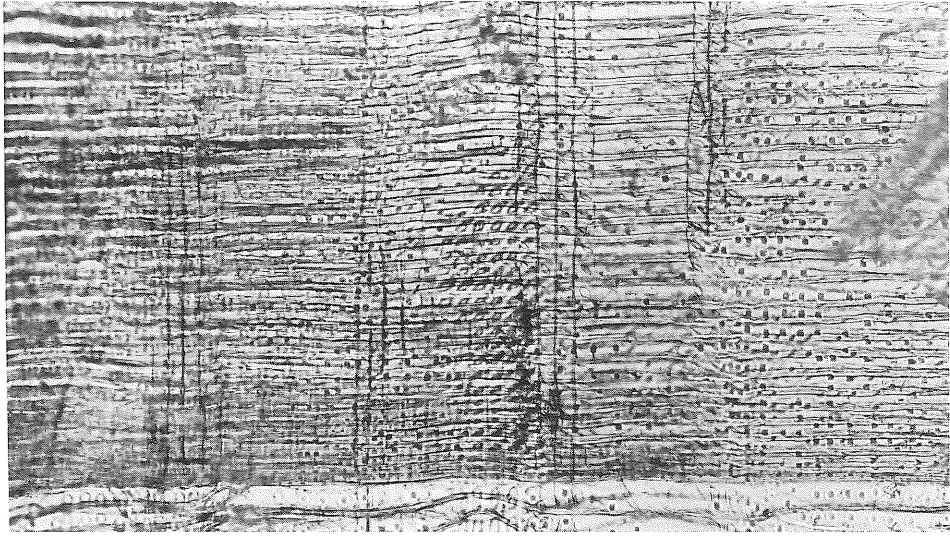
なお、写真でNo. 2というのは試料No.を示す。Rは柾目（Radial）、Tは板目（Tangential）、Cは木口（Cross）の切片の顕微鏡写真を意味し、×400というのは写真の倍率が400倍になっていることを示す。



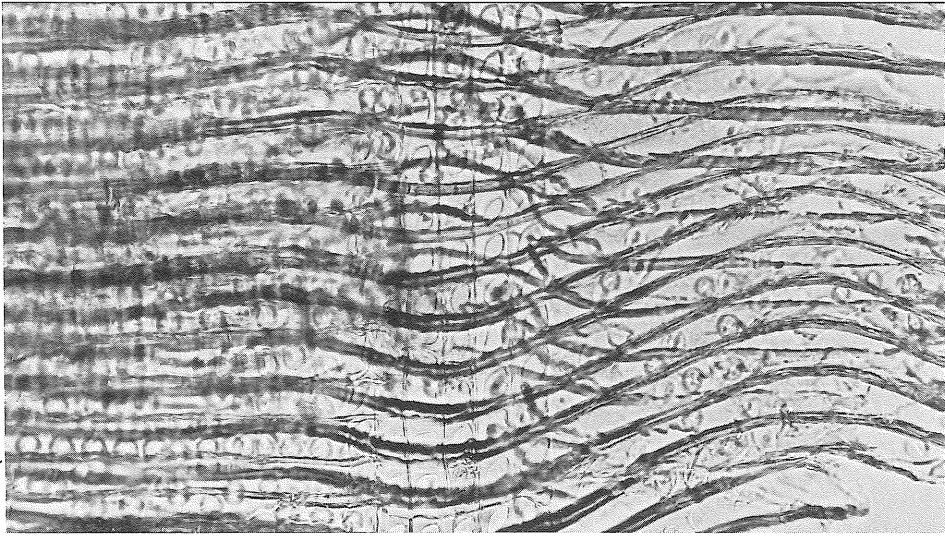
1
柱No. 2
R（柾目）
×400



2
柱No. 3
R（柾目）
×200



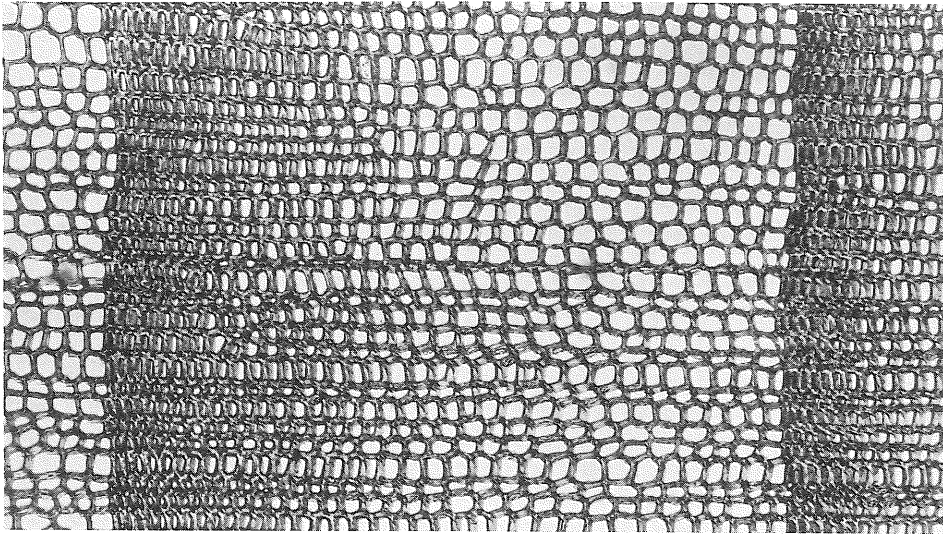
3
柱No. 5
R (柁目)
×100



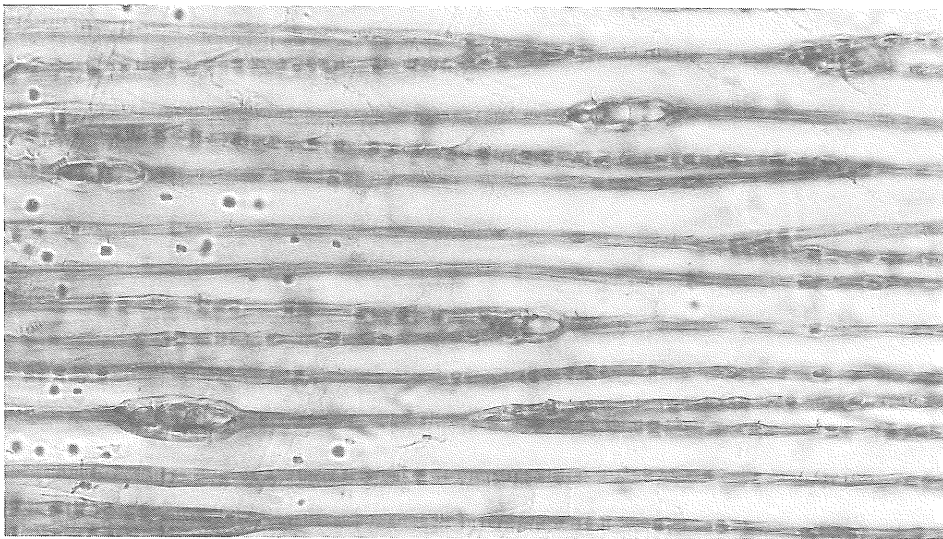
4
柱No. 5
R (柁目)
×100



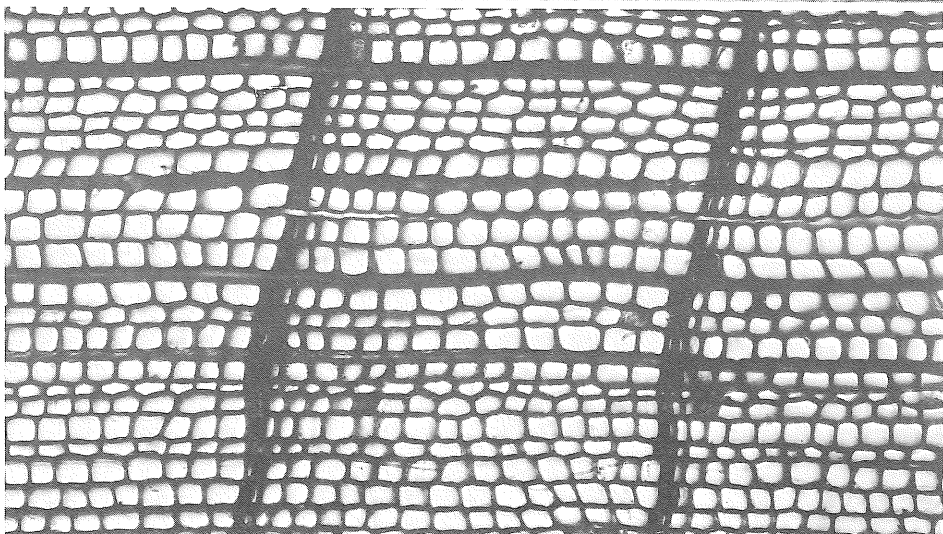
5
柱No. 7
R (柁目)
×200



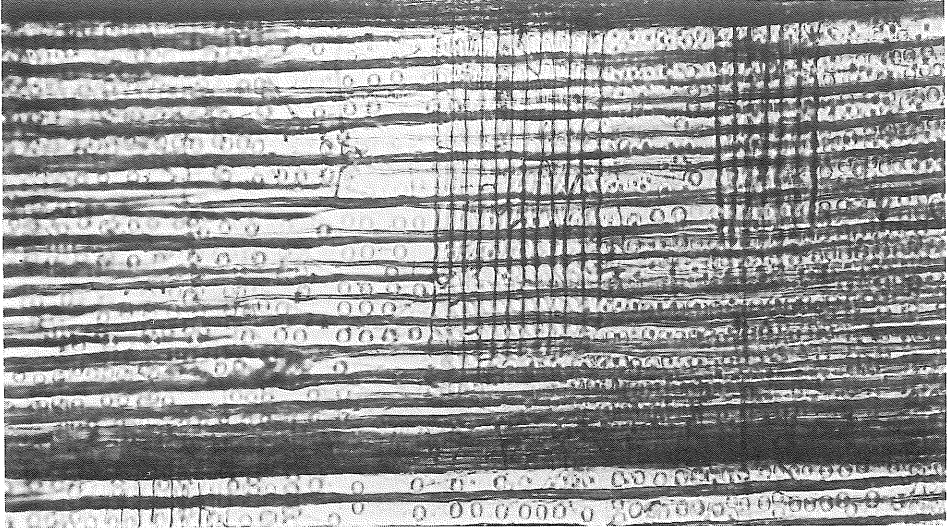
6
柱No. 7
C (木口)
× 100



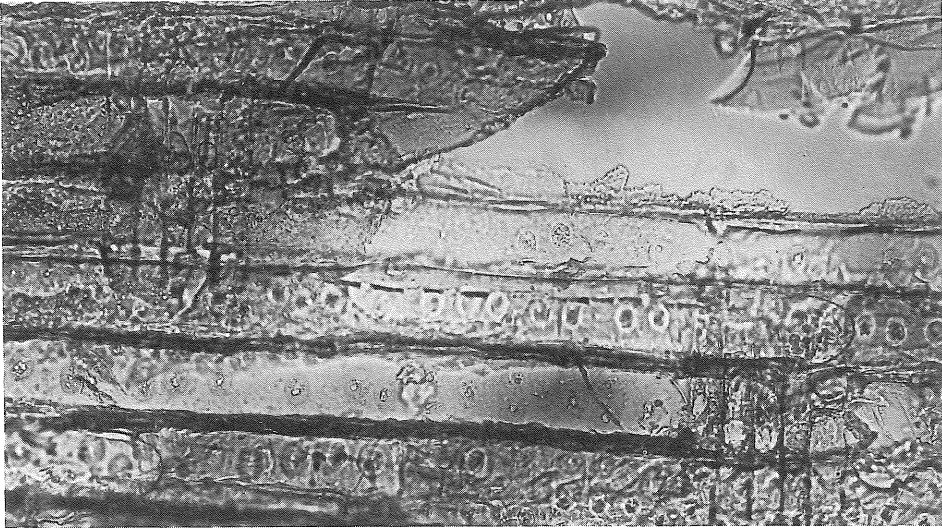
7
柱No. 7
T (板目)
× 200



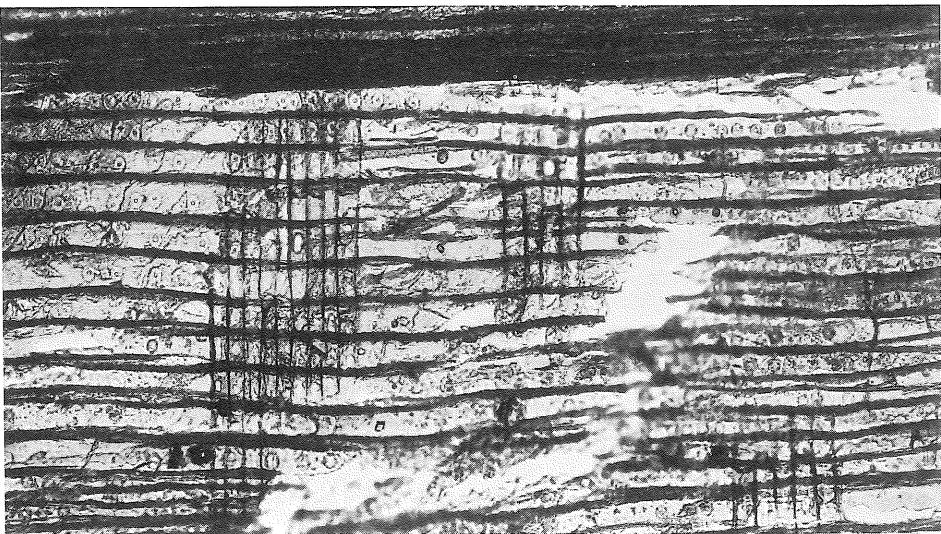
8
笠形No.42
C (木口)
× 100



9
笠形No.42
R (柁目)
×100



10
笠形No.49
R (柁目)
×200



11
笠形No.50
R (柁目)
×100